



みんながみんなでみんなを！

えんぎもの

校長 佐藤 忍



遅くなりましたが、新年となりました。本年もよろしくお願いいたします。

ところで、「明けまして」で始まる祝辞、いつまで使っているのか。基本的には「松の内(まつのうち)」が終わる1月7日までとされており、「松の内」とは、年神(としがみ)様をお迎えするため、迷わないようにする目印「門松(かどまつ)」を飾っておく期間。年神様が来られる期間を「お正月」とする考え方。それにならい、関東や東北、九州地方では、祝辞も含め、基本的には「松の内」も7日をひとつの区切りとすることが良いとされているようです。しかし、関西では1月15日までを「松の内」とし、「小正月(こしょうがつ)」までをひと区切りとする考え方もあるのだとか。もうすでに「小正月」も過ぎておりますので、冒頭の形でのご挨拶にて、お許してください。

さて、令和8(2026)年となりましたが、私自身、新年が始まり、「縁起物」を含んだ品を持つ機会が多くありました。また、今、校内でも文化委員さんが、お節料理のことや、記念日のことなどをポスターにしてくれていて、その中にも「縁起物」に関係していることがありましたので、今回は「縁起物」のそれぞれについて調べてみました。

毎年、干支(えと)の動物は、その年の「縁起物」と言われます。今年の干支である「午(うま)」は、物事が順調に進む年、運気が上向く年になるとのこと。

先日、コンビニでお菓子を何個か購入するとタオルがもらえる企画がありました。タオルの絵柄は3種類。「鯛」と「富士山」そして「招き猫」。私はデザインを見て、商売繁盛、そして幸運を招いてくれる「招き猫」を選択。「招き猫」の右手は「金運」、左手は「良縁」を招くと言われていいます。みなさんならば、どちらの手を挙げているものを選びますか？

また、ある日、100円均一ショップで見つけたのは「だるま」。なぜか「買ってくれ」と訴えてきているようで購入。「だるま」は願いを叶えてくれるという「縁起物」。叶えたい願いを思い浮かべながら片目を、願いが叶ったらもう片方の目を描くと良いとされています。地域によって最初に描き入れる目は違いうらしく、向かって右目から描き入れることで東の方角つまり、日の出に願いを託すとか、向かって左目から描き入れることで、心の目を開くといった意味を持つそう。江戸時代ごろから自分で目を入れるようなものができたとか。

3年生がいるD棟2階には、「破魔矢(はまや)」が。この「破魔矢」、災いや不幸といった魔を破り、幸福やチャンスや射止め、厄除(やくよ)けになる「縁起物」。「破魔矢」の「ハマ」は、もともと「的(まと)」という意味があるのだとか。弓矢は古くから神聖な儀式の道具としても用いられていますが、日本では正月に催されてきた、射礼(じらい)や破魔打(はまうち)と呼ばれる占いを行うような行事がルーツにあるそう。地域ごとに子どもが選ばれ、「ハマ」と呼ばれる的(まと)に向けて矢を放ち、それを上手く当てた子どもの地域が、その年豊作になるというものだったとか。そこから「ハマ」を討つ矢を「ハマ矢」と呼ぶように。進路に向かうことが間近に迫る3年生のみなさん、この「破魔矢」に肖(あやか)って、希望の進路が射抜けますように。

縁起物の中にある、「縁起」、「縁起をかつぐ」という言葉がありますが、これは縁起がいいとか悪いとかを気にすること。祈願の意味を含め、以前、良い結果が出た行動やいい状況になったことを思い返し、同じ行動をとることは「験(げん)を担ぐ」。元々は「縁起を担ぐ」。江戸時代、流行した逆言葉で「ぎえん」となり、それが「験」になったとの説も。スポーツの世界でよく聞く「ルーティーン」も「験担ぎ」に似ていますが、テストや面接、試合や発表など、験を担いでも担がなくても、いい結果が出ればいいですね。

みなさんの願いや希望がかなう、令和8(2026)年になりますように。

様々調べ、まとめましたが、それぞれの語源や意味には諸説ございます。ご了承くださいいただければ幸いです。



◆中学生の主張大会◆

毎年この時期に行われている「吹田市『中学生の主張』大会」。今年度は1/17（土）に千里市民センターで行われ、吹田市内18校の代表が発表を行いました。本校からは、生徒代表として1年組 大川琥太郎さんが出場しました。

テーマは「未来」。多くの聴衆が見守る独特な緊張感のある発表の場で、大川さん自身の身近な体験から、より良い未来にしていけるためには前向きに「行動」することが大切であるということを堂々と発表してくれました。



◆避難訓練を行いました◆

1/20（月）の6限に、今年度3回目の避難訓練を行いました。

古江台中学校では毎年、年間3回の避難訓練のうち、1学期は「不審者対応」、2学期は「火災」、そして今回は「大規模な地震」を想定した訓練をしています。今回は、教室での学習で1・2学期に行った訓練を振り返り、その2回との違いを比較しながら、地震が発生した時の対応について確かめました。

その後、地震が発生したことを想定して、その時にいた教室から体育館に避難する訓練を行いました。皆さん、その時にかかった放送の内容をしっかりと聞いて行動できたでしょうか？また、体育館では、校長先生が2011年に起こった東日本大震災の時の写真を見せながらお話をされました。

「いつ大地震が発生してもおかしくない」と言われており、実際に国内の様々な場所で地震が発生しています。もし、今ここで大きな地震が起これば・・・自らの命を守る行動を取れるよう、普段から考えておいてほしいと思います。



【保護者の皆様へ】

本校の「吹田市で震度5弱以上の大規模地震（余震）が発生した場合の対応」について、学校ホームページに掲載しておりますので、今一度ご確認ください。

ホームページにも記載している通り、生徒が在校している時間帯に大規模な地震が発生した場合には、原則として、保護者の方にお子様を迎えに来ていただけての下校となります。発災時の状況により、保護者の方がすぐに迎えに来られない場合には、親戚の方やご近所の方、ご友人等にご依頼いただく必要もあるかと思います。また、通常時であれば、「さくら連絡網」や電話等で家庭への連絡を行います。通信状況により、学校とご家庭との連絡手段が一時的に遮断されることも想定されます。

今回の機会に、お子様と「もしもの時の対応」についてご家庭でもじっくりと話し合っておいていただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

各種表彰

【書道】

令和7年度全国学生書写書道展 第5位

【水泳部】

吹田市新人水泳大会

女子 100m 自由形	優 勝
男子 50m 平泳ぎ	第 2 位
女子 4×50m メドレーリレー	第 3 位
女子 4×50m リレー	第 3 位
女子 50m 背泳ぎ	第 2 位
女子 200m 自由形	第 3 位

三島地区冬季水泳大会